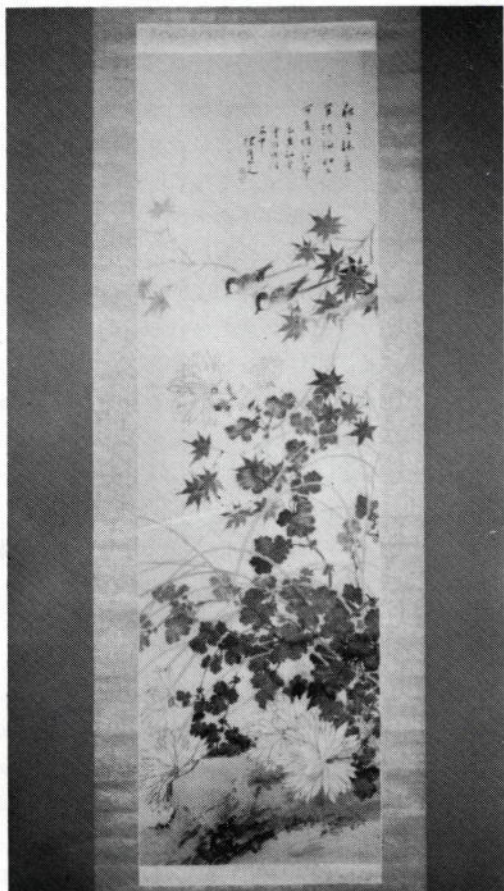


# 西多摩医師会報

第107号 昭和56年9月



老圃秋客

五日市町

小泉新策  
近藤友好撮影

## 目次

時論	.....岸田 壮一	5
けいれんと予防接種法の疑問点について	事業部だより	
.....山田 正哉	公衆衛生.....松原 貞一	9
文芸・随筆	医師会日誌	10
短歌...慰霊の日外.....小泉 新策	あとがき	11
旅行記...インド・ネパール紀行文(続)		

## 時 論

## けいれんと予防接種法の疑問点について

山 田 正 哉

会報105号紙上の公衆衛生からの予防接種に関する記事を拝見して、私なりの疑問点が2~3あった。

偶々福生市役所予防衛生課で予防接種の話になった際、この記事と同様のコピーが各市町村に配布されているのを知った。

常日頃私は発熱を伴わぬ予防接種は、けいれん既往歴(てんかん発作は除く)があっても注射することは問題ないと云う考えから、福生市では脳波検査の結果から注射可能な診断書を提出させて実施している。

然し乍ら発熱を伴うワクチンは、注射によってけいれんを誘発する恐れがあり、殊に麻疹生ワクチン接種によって、てんかん発作が増強された報告のあることも聞いていたので、一年以内の接種は中止した方が良いと考えている。

疑問点は、

1. 発熱を伴わぬ予防接種は1年以内に、けいれんの既往歴があっても注射することは問題はない。不活化ワクチン以外の生ワクチンは、例え接種量を減じて発熱率に変化がないので、生ワクチンの接種はさけるべきである。
2. てんかんで1年以上発作のない場合、脳波に異常が認められても発熱を伴うワクチン、殊に麻疹生ワクチンの接種は問題がある。これは先に述べた様に発作の増強した報告がある以上中止すべきであるとする。この点に関しては、国立予研副所長の宍戸先生も日本医事新報No. 2961.134で注意されている。

以上の点で、早くから予防接種問題を研究している日本でも有数の学者の一人、都立駒込病院感染科部長南谷幹夫博士と昵懇の爲め、会報の記事を送り私の疑問点に御解答をお願いし且つその御解答を当地区医師会報に掲載の御許可を賜った処、第22回臨床ウィルス訳語会々長職で御多用中の折にも不拘下記の文面を頂いたので全文を掲載しますので御参考にして下さることをお願いします。

拝復

冷夏を予想するような気候不順の梅雨も明け毎

日酷しい暑さが続いておりますが、先生にはお元気の様子また時折にお目にかかりましたが、お変わりもなくお慶び申し上げます。

御依頼の予防接種の件につきお答え致します。

1. けいれん既往歴のある者でも、副作用として発熱を伴わぬ次の項目については御指摘の通り差支えありません。

ツ反応、BCG、ポリオ、ジフテリア、破傷風、風疹。インフルエンザワクチンは、HAワクチンが採用されて以来副作用は殆んどないと言ってよいワクチンですが、どうしても過去のインフルエンザワクチンに拘わる人がいます。東京都では、1970~77年の間に、インフルエンザHAワクチンを18、489、498人に接種し、副作用として確認したもの15人であり、その内訳は、*Staus epilepticus* 1人、*Meningitismus* 1、*Febrile convulsion* 1、*Polineuritis* 1、*Facial palsy* 1、*Skin rash* 2、*Local reaction* 5、*Fever & Vomiting* 2、*Diarrhea* 2、*Relapse of Nephrotic Syndrome* 1という結果が出ています。

私は局所反応はもう少しあると思いますが、殆んど問題にならない程度の軽いものがあることも事実です。注目すべきはけいれんですが、ここにあげたけいれんが偶発性のものと考えられましてもやはりワクチンに伴ったという疑惑が残ります。しかし他のワクチンの副反応は偶発を含めてもこれより多いものがありますが、過去のインフルエンザワクチンの印象から接種をさける人もいます。私はけいれん歴のある人には、脳波検査の後異常があれば抗けいれん剤、なければ鎮静剤を与えて三混、麻疹ワクチンを接種しています(三混では5日間、麻疹生ワクチンでは14日間)。

またインフルエンザワクチンはその有効性、持続性を考えて周囲の人に、ワクチン接種を行ない、けいれん既往歴のある人には無理するこ

とはないとする人もいます。

良性けいれんるとき接種量を減量して予防措置として有効なものには不活化ワクチンのみで、麻疹生ワクチンを半量にしようが、 $\frac{1}{3}$ 量にしようが無意味です。麻疹生ワクチンはたとえ半量としても副反応には差がなく、数分の1まで減量してもワクチンがtakeするときは発熱までの潜伏期が1~2日延びるだけで、発熱率程度には差がありません。むしろワクチン差(シュワルツ、AIK、CAM)を考えるべきです。

2. てんかんで1年以上発作がない場合には麻疹生ワクチンの接種は、脳波に異常があっても接種してよいというのは少し疑問があります。

元来麻疹は脳波上一過性に異常があらわれることが知られており、また開発初期の麻疹ワクチンも接種後、軽度ながら一過性脳波異常が検出されていました。高度弱毒生ワクチンを使用するようになって安全性は増大しましたが、尚けいれん既往者に接種して絶体安全とはなりません。また麻疹ワクチン接種によるけいれん発作、てんかんを生じた報告があります。

私はけいれん既往者が1年以上けいれんがなく、且つその間かせその他の発熱時にもけいれん発作がないことを問診します。そして麻疹生ワクチン、三混ワクチンのように屢々発熱という副反応を生ずるワクチンの使用には、脳波に

異常のある場合は抗けいれん剤によるコントロールを行ってワクチン接種を行い、脳波に異常がない場合でも必ず鎮静剤(例 ルシナール)を与えてから接種します。

3. また身障児に対しては、自然発病よりワクチンのほうが安全という立場からワクチンを接種しますが、麻疹ワクチン、三混ワクチンに対してはけいれん対策としてワクチン接種と共に抗けいれん剤を与えます。

改良三混ワクチンは発熱という副反応を全く来たさないと考えてもよいワクチンと思います。

5000人の小児に接種されたところでは、発熱1%前後であり、これはワクチン接種のためか、偶発か疑問に思うところでもあります。

私は通常の三混ワクチンは一寸恐ろしくて使う気になりません。改良ワクチンは乳児にも使用しています。

以上簡単でありますが私見を申し上げます。またこの要約は会報に掲載されても差支えありません。

山田正哉先生

7月22日

南谷幹夫

この文面から私の考え方には間違いがなかったと思い、今後共私は自分の考え通りの方法を実施したいと思っています。



やさしく走る  
TOKYO

お知らせ

東京都医師会学術講演会

日時 昭和56年10月15日(木)
13:30~16:00
会場 紀伊国屋ホール
新宿区新宿3-17-7紀伊国屋ビル4F
新宿駅東口 TEL 03(354)0131
学術映画 "鎮痛抗炎症作用を探る"
製作 大日本製薬(株)(13:30~13:50)

講演 腰痛症のプライマリーケア

司会 東京都医師会理事 寺沢正夫

- 1 整形外科の立場から (14:00~14:50)
日本医科大学理学診療科
教授 石田 肇
(質疑応答)
2 内科の立場から (15:00~15:50)
順天堂大学内科学
教授 塩川 優一
(質疑応答)

東京都医師会 共催
大日本製薬株式会社

東京都医師会学術講演会

日時 昭和56年10月21日(水)
13:30~16:00
会場 安田生命ホール
新宿西口 TEL 03(342)6705

講演 老年疾患の診断と治療 (13:00~16:00)

座長 東海大学医学部教授・同附属病院長
五島雄一郎

- I 骨粗鬆症
東京大学医学部老年病科
助教授 折茂 肇
II 高脂血症
日本大学医学部第二内科
教授 八杉 忠男
III 保険医療における補液と検査
東京慈恵会医科大学
助教授 伊東 保

東京都医師会 共催
(株)三和化学研究所
城西ブロック各医師会 協力

文芸・随筆

拙なくも 彫みて居れば心すがしむ
こだわらず 仏陀刻まむ 今日の一と日を
戦没者慰霊の日や 定められり
余りにおそきも 心やすらぐ
恐怖なり 唯々征服が 至上思想とは
共存という心情を忘れはて 中性子爆弾
この望み成功なさば 宇宙間
電力不足完全解消す
雷鳴に 空中放雷 固定ならずや
人はみな 我等 海に山にと憩えるに
日曜の木陰に坐して涼風に 余暇のなきまま
さわやけし朝風そよぐ遠山にととぎす
「慰霊の日」外 小泉新策

短歌



## インド、ネパール紀行(続)

福生病院 岸 田 壮 一

## ○ ジャイプール

デリーから西南方約260 kmにある都会で朝早くバスで出発する。霧が立ちこめて寒い。朝夕は日本の晩秋である。

インドは6億の人口を有するのであるから至るところ耕地になっているのかと思うと意外にそうでない。むしろ開墾されない荒地が多い。ところどころ牛を使って耕作しているのを見ると、灌漑利水ができないために放置されているようである。

道路は一応舗装されているが、平坦でないので時速は平均40 kmを出ない。擦れ違う車は稀れであるが、イギリスの影響で左側通行である。

インド人のガイドは日本語を話す。ただ個人差があって、話すことは一応出来ても、読み書きをするものは少ない。

## アンバー・フォート

デリーから来るとジャイプールに着く前にある山上の城塞と宮殿である。

バスを降りたところから象に乗って登って行く。何も歩いても行けるのだが象の方が面白いから乗るのである。象の背に左右2人ずつ掛けられるように座がしつらえてある。御者はその前の処に跨る。象は図体が大きいからゆっくり歩いているようだが、結構早いもので、人間は駆足でなければ追付かない。象は糞を垂れ流しながら歩く。糞を食べるから糞もそう不潔感もないけれども、随分多量に排泄するものである。象の背に揺られながら山岳の風景を眺めるのもいいものである。

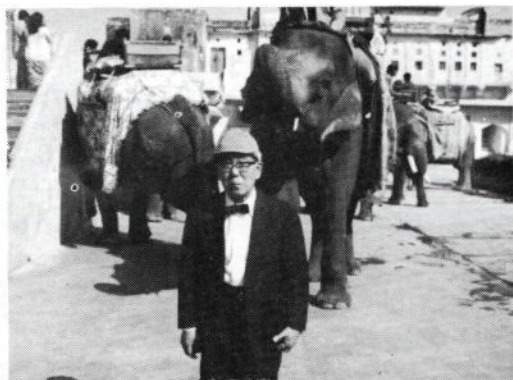


写真9. アンバー・フォート

山の高い処によく宮殿を作ったようでもあるが、要害堅固のつもりであったのであろう。ただ水に困るので、この砦を棄てて今のジャイプール市内に移ったそうである。

万里の長城を見る如く前方の山にも城壁が連って居り拜殿を配して難攻不落の誇りをしのばせるものがあった。

## ハワ・マハル・風の宮殿

市内の繁華街にある宮殿で、ジャイプールの象徴である。道路から見ると堂々たる王宮であるが、実は奥行のない建物で、風がどの方角からもすべての部屋へ吹込むように設計されている。



写真10. ハワ・マハル・風の宮殿

何とも暑さは堪え難いものであった如くで、他の宮殿でも多くは河の水を取込んで流し、その涼風が玉座に吹込むように考えた王宮が多かった。

## 市内宮殿

山上の旧宮殿アンバー・フォートと区別するためにこの名がある。その福見宮殿は今もなお公的に使用されることがあり、先年イギリスのチャールズ王子が来印されたとき、ここで正式歓迎晩餐会があったということである。

往時の王朝の蓄積した財産は宝石、貴金属、衣類、織物等莫大なものがあり、現在もここに蔵されている。しかし私有であっても国家管理になっていて子孫は自分の意志で取出したり、売却したりは出来ない。

ジャイプールのホテルはクラークス・アメールといって近代設備の行届いたものであった。しか

(6)

し市街から隔っていて、途中で鉄道の踏切がある。その遮断機が下りると車は早くて5分、下手をすると30分近くも待たされる。表向きの理由は通信連絡が不便だから列車が駅を発車するとすぐ閉めるのだということだが、長く待たすと観光客が退屈して車を降りて来るので、物売の売上がいくらかふえるということにもあるらしい。踏切は閉まっている歩行者や自転車は通れる。



写真 11. 市内宮殿

## ○ アグラ

ジャイプールから約240kmの道を同じようにバスで行く。途中にミッド・ウェー・レストランがあった。殺風景な景色の中に緑の芝生で紅茶を喫するのは快適である。朝早く出発して午前10時近く、大体この時間から暑くなって来る。

アグラも又人口300万を越す大都会である。

## タージ・マハル

インドを代表する建造物といっていいであろう。歴史、社会、地理の教科書や旅行案内書には必ずこの写真が載っている。ムガル帝国のシャー・ジャハン帝が愛妃ムムターズ・マハルの死を悼んで建てた大理石作りの廟である。中央に円形のドームがあって、円柱が幾本も建っている。前庭も広く、水が貯えられ、その広大さは目を眩らすものがある。この建造のためには遠くベルシャヤトルコの名匠も動員されたので、費用が莫大になり、帝国の運命を傾けたともいう。現在イギリスのロンドン塔にある戴冠式に使用する王冠の世界一というダイヤモンドはここにあるシャーの棺にはめられていたもので、イギリス人が剥がして持去ったのである。

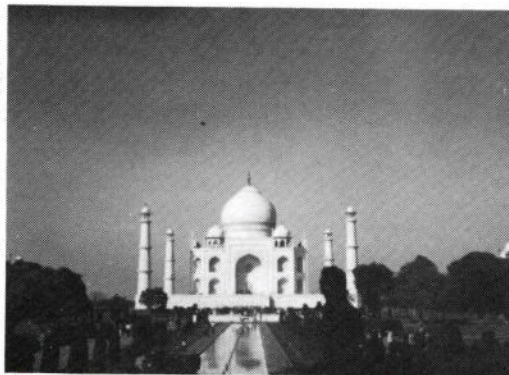


写真 12. タージ・マハル

## アグラ城

タージ・マハルよりジャイム河沿に上流に行ったところにある。城壁は赤色の砂岩で出来ているから、アグラのレッド・フォートの別名もある。イスラム教徒の襲撃を防ぐためにヒンズーの土侍バダール・シンが築いた砦を、シャー・ジャハンが手を加えて宮殿兼城塞にしたものとされている。

この櫓からジャイム河越に見る遠望もいいし、城内には公的、私的謁見の間、女性の浴室の跡、かつての城内バザールの名残もあった。

アグラのホテルはムガル・シェラトンといって今度の旅行中最高級のもので部屋のスペースも広く、庭の花も美しく、快適であった。ロビーには世界各国の観光客が入れ替り立ち替り現れ、日本からのツアーの団体が幾つも泊っていた。夜空は澄んで東京などと違い星が明るく瞬いていた。



写真 13. アグラ城よりジャイム河を望む

## ○ カジュラホ

バス旅行は終って飛行機になった。印度航空である。アグラからの飛行時間は正味30分である。

カジュラホは9～13世紀に栄えたチャンデラ王朝の首都であったのだが、その後政治、経済の中心的存在になることがなかったから、往時の面影は全くなくなって、原野にかえってしまった。人口約3,000、農家が散在するだけである。ただ最盛期の寺院だけが残って今は観光名所になっている。

寺院は大まかに西群、東群、南群に分けられるが、西群が最も数も多く、立派である。今もなお信仰の対象となって残っているものもあるけれども、一般に神殿としては大したことはない。碧空に聳えるように建つ塔状の建造物が見事である。これらには皆彫刻が施してある。花崗岩様の石であるが、何百年も風雨に抗して原型を止めているのは驚嘆に値する。

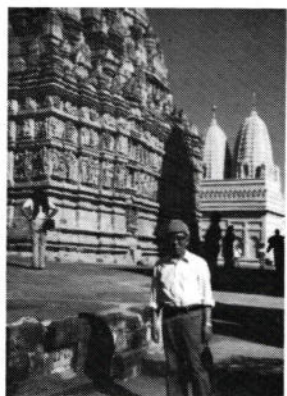


写真14. カジュラホの寺院

彫られてあるものは宗教行事の場面が多いようであるが、その中に女性の美を示すものが沢山混っている。又性の行動、男女合歓を現すものが多く入っている。起立したまま性交を行っている図もあるが、3人の女性を1人の男性が相手をしたり、戦場で女性の居ないのに堪えかねて馬の牝と交っているものもある。この場面を狙って写真を撮ったつもりであるが、他の像に埋もれてしまって、どれがどうか分らないものになってしまった。

カジュラホは都会がないだけに騒音、雑踏がなく、全く別天地へ来たような気がした。

#### ○ ベナレス

又轟音と異臭の強い市街へ戻って来た。空港からホテルまでは遠く、バスで約40分を要したが、途中甘蔗を植えているところが多かった。農村の家は如何にも貧困であり、満足な衣類を着た子供

も居ないようである。

#### サルナート仏跡

市から西北の方にある。釈迦が弟子を集めて説教したり、起居を共にしたり、或は順礼者や旅人を宿泊させたといわれる場所を *stupa* と呼んでいる。そしてそれは砂岩を塔状に積んだ土塊のようなものをいっているようであった。帰国してから辞書を繰って調べて見ると *stupa* とは高德者や聖人を記念する mound、塚の如きものをいうらしい。我国では墓などに立てかける梵字を書いた板を卒塔婆といっているが、語源的には同じものようで、*stupa* なる mound に立てた棒柱が卒塔婆の起りであると思われる。

その *stupa* は幾つもあって、一番大きなものの他に以前 *stupa* のあった跡だという廃虚もあった。別に寺もあり、その内部の壁画は釈迦の一生の出来事を順次に描いてあって、日本の仏教徒から寄贈されたといっていた。西域方面からの順礼者も来ていて日本でいうお経のようなものを唱えながら平伏していた。彼等はインド人よりはずっと日本人に近い容貌をしている。

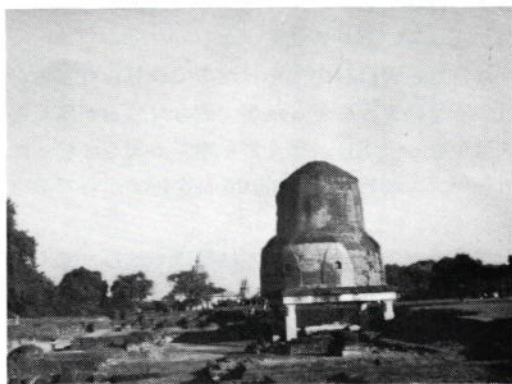


写真15. サルナート仏跡 *stupa*

#### ガート沐浴場

ベナレスはガンジス河に沿っている。その河岸に沐浴場が並んでいる。早朝太陽が昇る頃がその最中である。石段が河の中まで続いていて、ヒンズー信者は無心になって水を浴び又口を嗽いで、東天に向って遙拝している。火葬場があって、死ねばここで焼いて、灰はガンジスの流れに流すのである。

この状況を見物するために観光用のボートが沢山出る。水は朝の気温から感ずる程冷くはない。この観光船を目当て物売のボートが押寄せる。木



(8)

の葉を組んで蠟燭を挿したのもあった。灯笼流しに当るわけであろう。

ガンジスは雨期になると水量を著しく増すようで、西暦何年にはここまで来たという目じるしがあった。今の水面より10 m以上は高い。

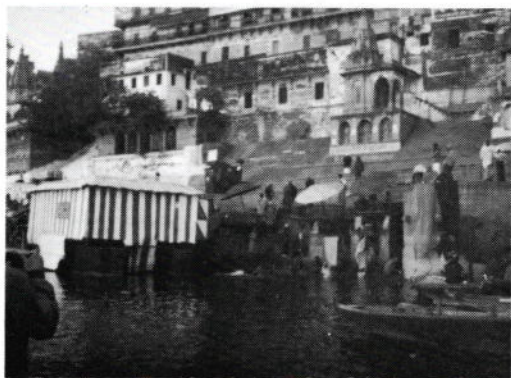


写真 16. ガート沐浴場

ネパール

○ カトマンズ

ネパールの入国は意外に手間取った。別に嚴重というわけでもないが、用意して来た審査用の書類が違っていたためであった。

着いたときは日中であったのでじりじり太陽が照って暑いように思ったが、間もなく日が傾くと気温がさっと下り、寒くさえ感ずるようになった。カトマンズは標高海拔 1,000 m を越すからである。

空港のターミナル・ビルは薄汚く感じ、遠く地の涯に来たように思ったが、市街に出てみると割と小ざっぱりしてインドよりは綺麗である。道路の舗装もよく、トロリー・バスが走っていて、寄りつく物売も少く、住宅や容貌も日本人に近いようである。

ここでも通貨はルピーというが、インド・ルピーより安く、1米ドルが10ルピーに当るから、日本の約20円といったところである。買物も値段がインド程掛値はしない。discount も若干するけれども1~2割程度である。チップにせよ何にせよ、インド人程がつがつ金を欲しがらないようである。

意外だったのは日本語が割によく通ずることで、ホテルのフロントやボーイが片言の日本語を話すのであった。ネパールの土産としては絨たんが一

番であるが、こうしたものを売る店では大体の日本語が分る。

串藤という日本料理店があって、焼豆腐やしらすの入ったすき焼などを食べさせる。座敷のように坐って食べる場所も作ってあり、高見山の手形が柱に掛けてあったりした。一般にネパールは標高が高いから平均気温は低く、日本と同じような野菜が何でもとれるとのことである。

ホテルはジャンカールといって王宮造りで外見は立派であるのだが、停電するのには憂うつになった。ネパールは石油の出る国でないから電力は節減しているらしい。大体交互に昼間に停電させているようだから、着いた日は午後8時頃まで点かなかった。蠟燭の火では何をするのも不便で、停電するとバスの湯も出ないので部屋に入っても行水することもできない。

スワセンプ・ナート

市の中心から西へ約3km行った小高い丘で仏教寺院がある。カトマンズ附近は盆地であるが、伝説によれば昔は湖水であったという。岩山を切開いて水が引き始めた時最初に水面上に現れたのがこの丘で、2,000年以上前に建築されたのがこの寺院であるとされている。385段の石段を登って拜殿に着くわけだが、今は車でもっと上まで行くから、そう登らなくてもいい。通称は目玉寺院であるが、ヒンズー教でも聖地と見なしている。

寺院は金箔を張ってあるが、時代の流れを経て聊か煤けて見える。猿が多いのはインドも同じだが、野生のもので、人の集るとこへ来て餌をねだる。



写真 17. スワヤンプ・ナート

ハヌマン・ドカ

旧王宮で市街の中央にある。この辺は一体に雑



## No. 107

踏している。私達には古い建物を見たというだけで、異様な感があるけれども、どうということもなかった。インドとも趣が違うし、日本とも又全く異なる。いふなれば西藏的であるかもしれない。

## クマーリ寺院

活き女神の住む寺院で、私の感じでは東京の下町、戦前の浅草の辺を歩いているような気がした。2階の窓から化粧した女の子が顔を見せた。それが活き女神だそうである。女神は写真を撮ることは許されない。4~5才で選ばれて女神となり、月経初潮を見るとその資格を失うそうである。

この辺の雰囲気としては老舗の御祭りと似てい

る。

ネパールは存外親近感のある国であった。私は僅か体調が悪くなったし、当てはしていたヒマラヤ遊覧飛行が天候で中止になったので、ネパールについて語れるものはこれだけしかない。けれども霧の中に霞んで見える巍峨たる山岳は山国なるを思わせ、水流も清く澄んで、日本とよく似たように思われた。

一日休養をとって午後7時のネパール・ロイヤル航空機でデリーに着き、その日の夜半日本へ向けて帰途についた。

## 事業部だより

## 公衆衛生

松原貞一

## 1. 沈降精製百日咳ワクチン

新しい沈降精製HI百日咳ワクチンは、従来のワクチンが全菌体をトキシイド化したものであるのに対し、その感染防御抗原が菌体表面から出る線毛にあるということが判り、線毛部分のみを取り出してワクチン化したものである。百日咳ワクチンは昭和24年より接種が開始され、34年ジフテリア・トキシイドと共にD・Pとして、更には昭和40年より破傷風トキシイドが加わってD・P・Tとして接種されるようになり、今日に及んでいる。従来の百日咳ワクチンは、菌全体を軽度の加温・低濃度ホルマリン処理・数ヶ月以上の冷蔵庫保存などして、毒性を低下させトキシイド化したものである。新型の百日咳ワクチンは菌全体をエーテルで破壊し、蔗糖密度勾配遠心法とかで線毛部分を取り出し、ホルマリン処理をし更にはアルミニウムを加え沈降させ、ワクチン化したものであるという。従来のワクチンは菌全体を使用していたので、その菌体外膜成分であるポリ多糖体が、免疫効果を増強させる添加物質(アジュバント)としての役目を果たしていたのに、新型ワクチンは線毛部分のみを使用しているため、菌体によるアジュバント効果を期待するわけには行かず、その代りにアルミニウムをアジュバントとして添加してある。アルミニウムは、抗原を吸着したり包埋し

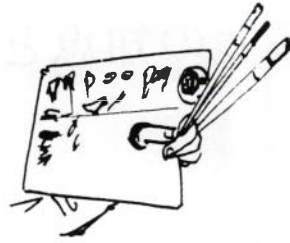
たりして、生体内で抗原が徐々に遊離することにより、持続的に抗体産生細胞を刺戟して免疫を増強する役割を果す。破傷風トキシイドと同様沈降ワクチンであるので、よく振ってワクチンを均等化させた後接種をすることは言うに及ばない。新百日咳ワクチンも、従来通りのジフテリア・破傷風ワクチンと共にD・P・Tとして使用されることになる。新三混ワクチンの接種方法は従来と全く同様で、1期は0.5ml宛3~6週間隔で3回ということになる。1期は従来のワクチンで、2期は新型を使っても一向に構わない。新型ワクチンの副作用は、百日咳菌体内毒素物値が現行ワクチンに含まれている量の $\frac{1}{10}$ ~ $\frac{1}{20}$ といわれるので、従って発熱率は現行ワクチンの20%に比し新型ワクチンでは3~7%とされ、38℃を越す例は稀となり熱性けいれんを起すことが少なくなる。局所発赤も従来の $\frac{1}{2}$ ~ $\frac{1}{3}$ となる。8月1日法改正が行われ、各市町村共在庫となっている従来のワクチンは返品して、新型ワクチンにより秋の予防接種を行うことになる。しかし、ワクチンが不足して入手出来なかった場合とか、新型ワクチン使用の法改正が周知徹底出来ず事故を予想し、緊急避難として従来のワクチンを使用することは、本年12月31日を限度として許されている。

## あ と が き

今月は前半は猛暑が続きましたが後半は比較的  
 爽やかなってきました。前代未聞の診療報酬改  
 定も終って早や2ヶ月を過ぎ、新旧比較のデー  
 タを出してみながら愕然としておられる方々が多  
 いと思います。特に職員を多く抱える医療機関では  
 影響大なるものと思います。第2次臨調の答申か  
 らも医療の世界もますます厳しさが加わるものと  
 覚悟を決めて、ふと暗い気分になって渴いた喉を  
 潤すビールの味も一段と苦さを感じる昨今です。

さて8月は夏休みをとられる方も多く会合も少  
 く原稿も少いと思いきや、表紙は近藤友好先生  
 のお骨折りで小泉先生秘蔵の名画を撮っていただき、  
 また山田先生からは予防接種に関する問題を熱っ  
 ぱく論じていただき巻頭を飾ることができました。

また、岸田先生の海外紀行シリーズ続編が編集  
 部の都合で大変遅れまして各方面に大変御迷惑を  
 おかけいたしました。ここに謹んでお詫びいたし  
 ます。 (高木 記)



昭和56年9月1日発行

発行所 西多摩医師会

東京都青梅市西分3-103

TEL (0428) 23-2171 (代)

会報編集委員 堤 次雄 川辺 隆道

植田 稔 桂木 真 高木 直

菅井 義久 鈴木 修

堀田 洋夫 道又 正達

印刷所 マスダ印刷 TEL (0428) 22-3047

CENTRAL  
CLINICAL  
LABORATORY

# 中央臨床医学研究所

〒197 東京都秋川市雨間523

TEL 0425-59-4843

## 正確で信頼性の高い臨床検査

- 検査内容 ■ 日常検査 生化学検査／血清・血液学検査他
- 特殊検査 内分泌学検査／ウイルス検査  
 免疫学検査／病理組織学検査他
- 集団検査 小・中学生検査／成人病セット検査

くらしの知恵と情報を

ホームバンクの埼玉銀行

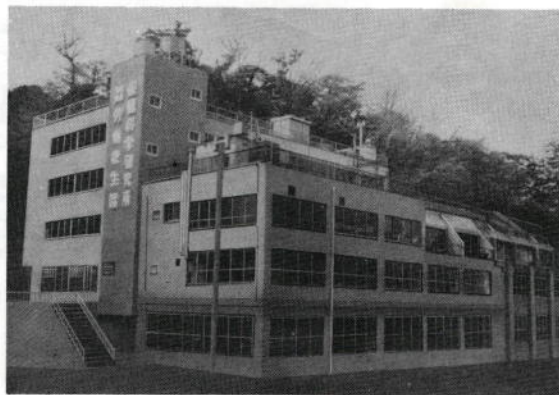


# 埼玉銀行

青梅支店 (TEL.0428-22-1101) 福生支店 (TEL.0425-51-1021)  
東青梅支店 (TEL.0428-22-2121) 村山支店 (TEL.0425-61-1211)  
奥多摩支店 (TEL.04288-3-2515) 五日市支店 (TEL.0425-95-1311)

## 臨床検査センターの雄 保健科学研究所

横浜市保土ヶ谷区神戸町106  
電話 045 (333) 1661 (大代表)  
八王子市子安町3-17  
電話 0426 (26) 2203・2204



- 総合臨床検査センターとして20余年間地域医療に貢献し、絶大な信頼を頂いています。
- 完全オンラインシステム化を実現致しました。(データ通信システム)
- 関係医療機関 約 3,500ヶ所
- 広範囲な検査内容
  - 内分秘学検査●免疫学検査●ウイルス検査●生化学検査●血清学検査●血液学検査
  - 病理組織検査●細胞診検査●重金属検査●水質検査

| 都|県の御得意先を毎日定期的集配致します。御一報を御待ち致しています。